

令和4年1月（2022年）No.673

### <新年のご挨拶>

## OMC 継続・発展の基礎づくりの年に

会長 合原一夫

コロナ禍もようやく下火となり、今年は、まともな生活や活動ができるなど、期待していたのですが、海外からオミクロンとかいう変なウイルスが入ってきそうだと、再び心配の種が来ましたね。何とか水際対策の徹底で納めて頂きたいものです。

さて、私達アマチュア映像界にとっては今、岐路に立っていると思われます。関西でも多くのクラブが解散したり、発表会を取りやめたりしていて、大阪アマチュア映像連盟も去年は3クラブが減ってしまいました。今、大阪ムービーサークルが主役として頑張っていますので、発表会など滞りなく実施されていますが、これも我が OMC の力が落ちれば連盟の存続も難しくなってしまうでしょう。

60年以上の歴史を誇る我がクラブを継続していくことの責任と課題を感じています。OMC 発表会も、出品可能な会員さんが10名を下回ってきました。まともなプログラムが作れるのか懸念されます。

上映時間が短くなっても、内容のある充実した作品が揃えば、観客の皆さんも満足して頂けることでしょう。前から私が主張しているように、じっくりと構成を練り、良い脚本を作り作品を作ってください。OMC 会員の作品レベルが上がり、それが世間に認められれば、会員増加にもつながっていくのではないかと期待しています。見込みのある他クラブの会員の呼び込みも一つの手かもしれません。ともかく、コロナ対策は対策として、仲間とのふれあいを大切にして残り少ない人生を有意義に、そして楽しんでまいりましょう。

## 1月例会のお知らせ

- 1月20日（第3木曜日）；13時～総会・表彰式及び第2例会開催
- 1月22日（第4土曜日）；18時～通常例会
- 会場；難波市民学習センター
- 今年も新年宴会は中止します。

## 令和3年度 年度表彰 発表

令和3年度年度賞は、幹事会による厳正な審査の結果、残念ながら最優秀作品は該当する作品が無く、優秀賞2作が選ばれました。

- 年度優秀賞 江村一郎様  
「やなせ森林鉄道」 9分00秒
- 年度優秀賞 紙本 勝様  
「加悦（かや）鉄道」 12分50秒

以上2作品に対し、記念品を総会の席上で贈呈いたします。おめでとう！拍手！

### 会長特別賞に中川氏

退会された広報前田茂夫氏に替わって、入会後日も浅いながら立派な OMC ニュース（会報）を発行されてこられた中川氏に対し、感謝の意を込めて表彰状並びに記念品を席上で贈呈いたします。

### 最多例会出席・出品者表彰

令和3年度も前年度に引き続き、緊急事態宣言により、例会場が閉鎖による休会が2回、第2例会が1回ありました、その為全体としての出席者、出品数も減りましたが、熱心に例会に参加された方が多く心強い限りでした。

- 最多出席賞（通常例会+第2例会）
  - ・14日；江村、岡本、紙本、合原、進藤、高瀬、宮崎
  - ・13日；山本
- 最多出品賞（通常、第2、課題コン）
  - ・17作品；江村
  - ・16作品；高瀬

以上、例会を盛り上げて頂いたご功績に対し、気持ちだけですが記念品を総会の席上で贈呈し、感謝いたします。拍手！

## 過去5年間の例会記録

### ■ 通常例会の記録

年度	会員数 人	出席者 人/回	出品数 本/回	総本数 本/年
H29	37	22.0	12.4	149
H30	34	17.3	10.1	121
R 1	29	14.6	9.7	116
R 2	27	13.1	10.2	92
R 3	23	11.3	8.4	84

### ■ 第2例会の記録

H29	37	16.8	12.6	75
H30	34	16.8	11.2	67
R 1	29	14.0	10.7	64
R 2	27	12.4	10.6	63
R 3	23	12.4	10.8	54

### ■ 通常例会+第2例会

年度	年間合計出席者	年間合計出品数
H29	264+101=365名	149+75=224本
H30	208+101=309名	121+67=188本
R 1	176+84=260名	116+64=180本
R 2	118+62=180名	81+53=134本
R 3	102+62=164名	84+54=138本

注1；課題コン、撮影コンの作品は第2例会に含まれる。但し令和2～3年度は撮影コンは開催中止

注2；R2(令和2年度)は通常例会3回、第2例会1回の休会があった。又R3は通常例会2回、第2例会1回の休会があった。(コロナ禍の為)

注3；第2例会は奇数月だけ開催、年6回

注4；休会月に会長に提出され、ネットで流された作品（通常6本、第2例会4本）も作品総数に含まれる。

## 例会記録から見えてきた事

こうした現実の数字を見ていると、年々厳しい状況になってきていることが判る。

もっともこの2年ばかりは、コロナ禍の影響で例会が中止になったり、撮影にも行きにくい雰囲気になったりして、映像活動に支障をきたした感はある。然しコロナ騒動が無かったとしても傾向は変わらなかったと思う。一因は会員の高齢化であり、若い人の入会が無いという事である。ともあれ、会員諸氏よく頑張って映像活動を続けて来られたことに敬意を表したい。健康上の理由で退会された会員さんも居る中で、現在残っている会員さんは、ほとんどが世話役で会の活動を支援して頂いている方ばかりであるが感謝の至りである。これらの会員さんの制作意欲は高く、例会毎に作品を持参され会の維持発展に寄与されていることは誠に心強いものがある。

但し、発表会に出品されそうな方は10名を切り、あと数名は欲しいところであるが、会員を増やすのは難しい。発表会は今年で62回を迎える。伝統あるOMC映像フェスティバルの灯を消さないで継続していくこと、それは例え時間が短くとも内容のある発表会しかない。各人が年1本でもいいから自分なりのグランプリ作品を目指して作って頂くこと、これが今年の希望であり目標でもある。ガンバリましょう。

## 今年こそ撮影会を実施

この2年ほどコロナ禍による撮影会が中止になっているが、コロナ過がひと頃に比べ桁違いに激減してきたことにより、今年は撮影会の実施が出来るのでは、との希望的観測により、唯今、進藤、中川両氏のお世話で企画を練って頂いている。

### ■ 撮影場所は兵庫県福崎町

民族学の祖「柳田国男」の世界と妖怪達

辻川山公園には妖怪たちの像があちこち設置されていて絵になりそう。また柳田国男生家、記念館、資料館、有形文化財の郵便局等々、撮影対象はいろいろありそうである。あとはこれを「作品」としてどう描くか、作品の狙いをどこに置くか等、構成脚本が課題であろう。



### ■ 時期は5月中旬～下旬の土日に

総会の時に会員諸氏の希望を聞いて決めたい。

### ■ 撮影会作品コンテストは7月第2例会で

## ZOOMによるミーティング 継続

コロナ過で例会が思うようにできなかった替わりとしてスタートしたZOOMによるミーティングは、進藤副会長らのご尽力で、好評のようなので、例会が再開された現在でも継続して行われます。特に例会に参加できにくい遠隔会員には、対話のツールとして有意義と思われれます。



## 公開映写会〆切り、7月通常例会

今年第62回OMC映像発表会の作品締切は、7月通常例会（第4土曜日23日）です。

そして8月初旬、幹事会で直ちにプログラム編成に取り掛かります。会員諸氏、それまでに自信作つくっ

てください。少々長めの作品もOKです。いい発表会になることを期待しています。

## 1 2月例会レポート

天候を表すのに、「何十年に一度」という言葉が多くなった昨近、この日にも近づいて来た寒波が予想されていた。引き続き新しいコロナ禍が燻っている下での例会開催となった。

- 運営担当：司会 合原、書記 進藤、映写 岡本、坪井、メモリー記録 中川  
受付・照明 宮崎、森下、YouTube関係 高瀬 の各氏
- 出席者：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、高瀬、坪井、中川、  
宮崎、森下、山本氏の12氏

上映作品 (今月の書記は進藤氏)

### 1. 棕(むく)と楠と朴(ほお)の木

紙本 勝 10分25秒

<作者コメント>

邸宅にある棕の木は撮るのが難しく、春日大社の先にある楠は古木、急で長い坂は難儀した。

戎場神社の朴の木、それぞれに巨木紀行にふさわしいものでした。

<書記コメント>

作者紙本さん独特の作風による体験記だ。見る人の目をとらえるのは、対象物の珍しさに違いない。巨木それぞれには、生きてきた長い間の時代の記録を見ることができる。枝ぶりなどではなく、木の幹が歴史を語っていました。そして、まだ生き続ける生命力にひかれるのに違いない。「ああしんど」という言葉も共感を呼んでいるに違いない。

### 2. 火焚祭

江村一郎 7分30秒

<作者コメント>

2021年11月8日伏見稲荷神社の火焚祭に行ってきました。稲荷神社のご神恩に感謝する祭典で、全国から奉納された数十万本の願いが書かれた火焚串を3基の火床で焼き上げ、気頑成熟を祝詞(のりと)と炎で届ける。祈りの姿をどれだけ映像で表現できたか…悩ましい。

<書記コメント>

作者の狙いは、護摩火と巫女さんの舞を通して祈りを表現。一本調子に見えるBGM。カット繋ぎとして挿入された短いカット。それらは、焚火の炎の力をより効果的に導いているように見える。単に、祭りの記録にしてしまわない、俗っぽさを消してしまったところがよかったです。よさこい踊りとは、作風が少し変わってきているように感じました。

### 3. 毘沙門堂の秋

高瀬辰雄 9分10秒

<作者コメント>

京都山科の毘沙門堂は紅葉の名所として知られ、シーズンになると大勢の人で賑わいます。時には境内で様々な催しも行われ、その中のいくつかを撮影、まとめてみました。特に山科は赤穂浪士、大石内蔵助のゆかりの地であると共に毘沙門堂の門跡が浪士の切腹を裁定した





ともいわれ、義士祭りの出発地が毘沙門堂になっています。撮影は4～5年前。

#### <書記コメント>

この作品では、赤く色づいたきれいな紅葉が印象的だ。これだけきれいに色づいたシャッターチャンスはなかなか実現できない。それに加えて、大石内蔵助と山科との関係が毘沙門堂の行事として描かれている。大石内蔵助が、ひっそりと山科「法住寺」に蟄居していて祇園の遊郭一力茶屋に通っていたという話は映画などで見たことを思いだした。この作品で展開されている、詩吟に始まり、紅葉と若い二人の姿と舞い、子供歌舞伎から赤穂義士祭りまでが一つのストーリーとして作者の描きたいと事であったに違いない。それにしても、吉良邸への討ち入りを決断して実行、そしてその結末に至る間には、当時の世間を揺るがした多くのことがあった。作品の中に、ストーリーとして表現されているが少し難解だったかもしれない。

#### 4.箕面大滝に 大山椒魚が棲む

進藤信男 12分00秒

#### <作者コメント>

4KHDR 撮影・編集作品2作目。今回は、HD映像を大きく取り入れてみました。これから暫くは、こんな作品が多くなると思われれます。この箕面は、宗教上の聖地でした。山の斜面は、上千本、中千本、下千本と楓（もみじ）の木がしげり秋には一斉に谷を彩る。そして、今も清流が流れる箕面川には、国指定の特別天然記念物・大山椒魚が棲んでいるのです。

#### <書記コメント>

鮮やかな紅葉の景色が少なかったのは残念。清流を描くため、川面に降り立っての撮影ができればよかったが保護された領域でもあり残念でした。



#### 5.ガンバレや花鳥園

合原一夫 9分00秒

#### <作者コメント>

神戸花鳥園は2006年3月(H18)オープン。話題性があったので翌年訪れて撮影したのがこの作品。このころから経営が危ぶまれて2年目の2008年には、売上高が半減、2013年に倒産している。その後リニューアルして「神戸どうぶつ王国」として再建され、今日に至っている。この作品は花鳥園として開園されていた時の記録で、貴重な記録映画と言える。

#### <書記コメント>

動物と植物を育成しながら、触れ合いをテーマにしたイベント中心の会場である、花鳥園だったが短期間の営業で幕を閉じてしまった。

神戸ポートアイランド二期工事地区のテーマパーク。作者の応援したい気持ちがタイトルに表されている。2014年に、花や動物の種類を随分増やして再建されている。隣は、最近世界最速のコンピューター「京」のセンターがあるが、遊園地としての立地は厳しそうだが、新しい動物王国としての姿も是非見たいものです。



#### 6.西高野街道と里石

中川良三 12分24秒

#### <作者コメント>



河内長野駅前には高野街道の合流地点を示す標柱がある。

以前狭山池を取材したときに博物館にも関連資料があり、茱萸木と弘法大師とは大変関係は深く、西高野街道には里石が立っている。

この里石に興味を持ち調べていくと茱萸木村の有志が里石を建立したとの事だった。建立した背景を調べてみた。

#### <書記コメント>

女人街道としての西高野街道、その発起人の背景から稲作の収穫、地区を流れる二つの川、狭山池へ。その地層の意味すること等と展開している。一つ一つの史跡や地層、史実等で説明することになる。理解を促すために、それぞれに繋ぎカットが欲しいところですが12分という時間ではなかなかむづかしい。しかし、よく史実などを確認され纏められていると思います。

#### 7.木曾路

山本正夢 7分10秒

#### <作者コメント>

海外旅行が難しい今日、国内で興味があるテーマを探すと昔の街道風景が自分的には面白いと、編集しました。

#### <書記コメント>

大阪にいる私たちは、45番目の宿場「中津川」から入り「是より北 木曾路」がある落合、馬籠、42番「妻籠宿」と行くのだが、本来は江戸から数えた番号なのでこの作品の様に妻籠宿から入るのが順当なのです。

中山道で、島崎藤村の小説「夜明け前」に登場する馴染みが多い地区を取材されています。久しぶりの国内の取材ですが、うまく雰囲気を変えられていると思います。



#### 8. 実際の作品を利用して

音声からの文字起しに挑戦

上総秀隆 12分

#### <書記コメント>

先月に続いて、再提出の作品です。

テロップの作成方法として、音声から直接文字化するソフトウェアを試行されています。

初めての挑戦で、なかなか上手く捉えられないようですがソフトウェアとしてもAI技術などの取入れが多いと予測される分野でこれから急速に進歩していくものと予想しています。これから、どのように利用するかなどを見守りたいと思います。

#### 【あしがき】

この一年、「不要不急の外出は控えてください」との言葉には随分ならされましたが、ここに来て急激な寒波の到来にも同じ言葉が使われています。

撮影行には、他府県との往来にいろいろな制限がありました。かつて取材していたテーマの具体化着手からはじめ、指摘されている3密防止のための制約にも負けず、各会員の元気な活動がありました。

一方、そんな中で続けてきた ZOOM を利用したオンライン講座は具体的な作品視聴や編集などに直接関連する事項を取り上げるところまで来ています。

あたらしい変異型オミクロン型が増え始めるなど、事態の好転を予測するのが難しくなっています。しかし、新しい年にはあたらしい行動が必要です。これから起こってくる新たな事態にも、積極的にチャレンジしていきましょう。

